

気楽に！
ペルセウス座流星群を観測



そらんぽ四日市
ホームページ

夏の夜の風物詩「ペルセウス座流星群」。名前を聞いたことはあるけれど、実際に観測したことはない、という人も多いのではないのでしょうか。

そのハードルが高い要因として考えられるのが、星座の位置です。この時期には、博物館宛に「ペルセウス座は空のどのあたりに見られますか？」という問い合わせが増えます。マイナーな星座のため、探せるかどうか分からないと思う人がいるようです。

しかし、流星群の観測のために星座を探す必要はありません。流星群とは、空のある一点から、放射状に流星が出現する現象のこと。これは、宇宙空間

に存在する流星の素となる塵^{ちり}の集団に、地球の大気がぶつかることで、その塵のある方向（放射点）から流星が発生しているように見えるためです。この放射点の方向にある星座の名前を取って〇〇座流星群と呼びます。

こうした流星群の特性から、空が暗く開けたところで、空全体を眺めれば、さまざまな方向にたくさんの流星を観測することができます。特に今年はピークとなる8月13日のころ月明かりがなく、一晩中楽しむことができます。気楽にチャレンジしてみましょう。

（当館主催ペルセウス座流星群観望会の情報は当館HPから）



☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

新
一
万
円
札
の
顔
と
四
日
市
を
つ
な
ぐ
石
碑

新一万円札の肖像画であり、「近代日本経済の父」と称される渋沢栄一と、本市の近代産業の礎^{いしづえ}を築いた旧四郷村出身の10世伊藤伝七^{でんしち}（1852～1924）をつなぐ「渋沢栄一撰^{せん}弁^{べん}書^{しょ}石碑」が、四郷小学校の近くにあります。

伝七は、父親と共に明治15（1882）年、水力を動力とする「三重紡績所」を川島地区に開業しましたが、安定した動力を得られず、うまく事業を進めることができませんでした。

経営に行き詰まり、当時の石井邦猷^{くにみち}県令（知事）に相談したところ、渋沢を紹介されました。渋沢は、「資本金の半分を東京で集めてやるから、あとの半分

は自分たちが奔走せよ」と言い、合本会社（株式会社）への転換を勧め、地元から資金が順調に集まるよう支援しました。その結果、明治19（1886）年、「三重紡績会社株主総会」が開かれ、三重紡績を再スタートさせ、産業の発展への第一歩を踏み出すことができたのです。

この石碑は、渋沢栄一が伝七の功績を称え、文章を書いて作ったもので、伝七がいかにして本市産業の近代化に貢献したかを後世に伝えていきます。



渋沢栄一撰弁書石碑

☎ 文化課 (TEL) 354-8240 (FAX) 354-4873